日本体育大学
東京都保護者会報
vol.28
Spring 2017.3.1
●発行者　日本体育大学／東京都保護者会　●お問合せ先　nssu.apg.tokyo@gmail.com　●タイトルロゴ　越水　春汀

オリンピックを考える

副学長　具志堅 幸司

第三十一回リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが幕を閉じた。FIG（国際体操連盟）のご配慮で開会式を見ることができ、プロジェクションマッピングを駆使した大変素晴らしい演出に感動した。同時にオリンピックは世界平和に貢献していることを実感した開会式でもあった。特に今から三十六年前のモスクワオリンピックを日本がボイコットしただけに、またその時の代表選手だっただけに悔しさと同時に平和について考えさせられるモスクワ五輪でもあった。私たちはクーベルタンの提唱しているフェアプレーの精神をもって理解しあう事で平和でよりよい世界の実現に貢献する」と言うこの精神を忘れてはならない重要な事である。

今回のリオ五輪、内村選手の大逆転でオリンピック個人総合二連覇をたち成したことは国民に最後まで諦めない事、勇気や感動、さらには生きる力を与えたと思う。

私が感動したのは演技だけではなく、その後のインタビューである。大会後メダリスト三選手が呼ばれ、まずはじめ内村選手に「あなたは審判に好かれているから高得点が取れたと感じていますか？体操競技で一点差をつけられての最終種目鉄棒で、審判からの同情や支持による加点があったと思いますか？」と言う質問であった。これに対し内村選手は「審判は公平だと思う」と明言。これで終わればなんと意地悪な質問だったで終わるのだが、この時、個人総合銀メダリストのベルニャエフオレゴ選手（ウクライナ）が「内村選手は今までのキャリアの中でいつも高い得点を獲得してきた。今の質問は愚問であると思う」と発言、三位に入ったウイットロック選手（イギリス）も「彼は素晴らしい、皆のお手本だ」「何年も見てきたがすごいとしか言いようがない」と内村選手に絶賛の言葉を述べた。

私はこのインタビューを聞き、目頭が熱くなった。まさに勝者を称えるスポーツマンシップである。スポーツマンシップとは一言でいえば「尊重である」相手を尊重し、審判を尊重し、そして自分を尊重するから最後まで諦めない、全力を尽くすという事である。まさにスポーツマンシップが遺憾無く発揮した場面であった。

本学におけるオリンピック関係を調べてみると初出場は第九回アムステルダム（一九二八）陸上の棒高跳びで中沢選手が六位入賞を果たした。今から88年前である、爾来、第三十一回リオデジャネイロ（二〇一六）まで実に三四六名の選手が本学出身者として活躍した。冬季大会を入れるとその人数は三七三名にのぼる。またメダル数で見てみると、これまで日本が獲得した総メダル数の約四分の一にあたることになり他大学の追従を許すことなく歩んでいる。

昭和三十九年の東京オリンピックの招致は日本のスポーツを飛躍的に発展させ、本学における競技力向上、体育教員養成機関として確固たる地位を占めたように、二〇二〇年オリンピック、パラリンピックはさらに不動のものにしなければならない。理事会が提唱している選手強化、国際化、ワンファミリー化を基軸に「みる、スポーツをする、支える」と言う観点から本学における役割を考え、学生総動員でオリンピックに向かっていきたいと願っている。

本学の学生支援と就職について

キャリア支援部門事務室
事務長　大山　茂

東京都保護者会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本学の教育、運営に格別のご高配を賜り有難うございます。

早速ですが、本学の就職状況及び学生支援について報告いたします。

今年度は、企業の選考解禁日が八月から六月に変更されたことにより、教育実習を行う学生に影響が出るのではないかと考えていました。しかし、実際には数名の相談はありましたが大きな影響が出ることはありませんでした。

九月一日現在、公立学校教員採用試験は二次試験まで終了し、結果を待つばかりとなっています。例年に比べ、一次合格者が少なく、他大学の情報からも現役合格者は減っているのではないかと思われます。公務員試験結果は、例年に比べ大きな変化はなく、警察、消防、市役所などから合格が出ています。

また、企業就職については、例年通り体育・スポーツの分野に限らず、メーカー、卸・商社、小売、サービス等、幅広い業界から内定を獲得しています。本学学生の多くはスポーツを通じて、目標や未知の領域へ挑戦する心を持っています。人事担当者との情報交換会でも、本学学生に期待している企業は多く、年間を通して求人票を頂いている状態です。しかし、面接を担当した人事担当者からは、以下のような意見も頂戴しています。「本人が何をしたいのかわからない」「筆記試験を通過できない」「自分のことが話せない」という三点です。これらに共通していることは、”準備不足“です。前もって計画的に対策、準備、練習をしておくことが求められます。特に近年は、素晴しい経験をしてきているにも拘わらず、発信力の弱い学生が多く見受けられます。そのような学生には、面接練習を始め個別での支援を行っています。

我々は学生支援に際し、学生に伝えることがあります。それは、「就職活動に決められた正解はない」と言うことです。言い換えれば、「学生の数だけ答えが存在する」ということになります。一〇〇人いれば一〇〇通りの就職活動があります。自分の中の「正解」を見つけるためには、今まで過ごしてきた二十数年間を振り返り、将来に向けて真剣に考えることが必要になってきます。

近年では、大卒者が就職後三年で三割以上離職していると言われています。勿論、ブラック企業等で早期退職が望まれる所もありますが、学校現場に代表されるように、長時間労働や残業代がつかない職場でもやりがいがあれば離職には繋がっていません。入社後のミスマッチを防ぐためにも、学生自身がインターンシップやＯＢＯＧ訪問を積極的に行い、仕事内容は勿論、職場の雰囲気も感じ取ることが大切となってきます。企業もミスマッチを防ぐために、職場見学や若手社員との懇談に力を入れています。

即戦力が欲しいと一部の企業では言われていますが、実際はスポーツと同様に入社してすぐに戦力になる事はありません。社会人としてや仕事の基礎、基本を身につけ失敗を繰り返しながら成長していくものです。最初は単純作業や辛いことの繰り返しかも知れませんが、三年間は成長の期間と捉え、色々な事に挑戦して欲しいと思います。本学の卒業生は素直で、明るく、挨拶ができ、職場の先輩たちからの期待値も非常に高いです。しっかりと基礎・基本を身につける事で、その後は無限に成長していきます。早くに役職に就く先輩や海外で活躍している先輩たちも大勢います。

就職は、人生の選択です。自身の人生の選択について三年生、四年生になってから始めなければいけないというルールはありません。入学直後からでも積極的にキャリア支援部門や教職支援センターを利用してもらいたいと考えています。教職員の中には、キャリアカウンセラー資格を所持する職員、本学教員、更に元学校教員・校長経験者が在籍し、支援を行います。是非ご子息・ご令嬢に『キャリア支援部門や教職支援センターを利用する』『行動を起こす』事をお話いただければ幸いです。

東京都保護者会の皆様へ

日本体育大学 保護者会
本部会長 高塚 章

春分の候、東京都保護者会の皆様におかれましては益々ご健勝のことお慶び申し上げます。また、日頃より保護者会活動に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本体育大学は今年一二五周年を迎えました。そしてこの保護者会は一九七九年（昭和五十四年）に父兄会として設立されてから、今年で三十七年目になります。

保護者会の目的は学生の健全なる育成を図り、主に教育・研究活動、学友会活動、就職活動の援助を行うことであります。大学関係者の皆様と保護者会の先輩方のご尽力と子どもを思う親心で今日まで活動してきました。

現在、日体大の全学生の約二十二％にあたる一四七一名が東京都に在籍しています。これは全国の中で一番多い学生数であります。東京都保護者会は清水紀子会長のもと、キャンパス見学会、キャリア支援講演会の行事開催や体育実演発表会、体操部演技発表会、箱根駅伝、ダンス部発表会等の応援にとても多くの保護者が参加し活発に活動されています。本部保護者会会長として心から感謝申し上げます。

今年度、ブラジルのリオで行われたオリンピック・パラリンピックでは、日体大の現役学生、卒業生、役員として六十三名が参加し、皆様ご存知の通り、大活躍をして日本中を熱狂させてくれました。また、熊本地震災害復興学生ボランティアに多くの学生が自ら何度も参加し、被災された方々からとても感謝されました。この様に日体大の学生の素晴らしさは、スポーツ面の活躍だけでなく、他者のために全力を尽くして支援しようと駆け付けてくれる多くの若者がいることだと思います。そのことを私は誇りに思います。

これからも保護者会は、保護者一人ひとりの意見や要望をより多く活動に反映し、大学との連携をより強固にしていく所存です。ほかの学校出身の方も多くいらっしゃるかと思いますが、これからも「子どもの母校は、我が母校！」を合言葉に学生と大学を支える一番の応援団であり続けたいと思っております。

末筆ですが、東京都保護者会の益々のご発展と会員皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

イラスト：北野 光一（三年保護者）

日本体育大学保護者会 関東ブロック代表者会報告

副会長　田村 富子（三年保護者）

毎年各支部で主催される関東ブロック代表者会が十月一日（土）に千葉県幕張で開催されました。

今年の総学生数六六四六名、そのうちの関東ブロックは、全学生約六割の人数を占める大所帯です。一都七県　茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県、東京都の活動状況や情報交換がありました。

今年は、各支部とも面接を行うことが多かったようです。

大学からは、松井副学長をお迎えして大学の近況をお話し頂きました。

一二五周年の式典を六月十八日（土）、世田谷メインアリーナで開催され一〇〇〇名を越す人数となったことやリオオリンピック・パラリンピックの結果など報告をされました。

二〇二〇年には、七十名以上のオリンピック・パラリンピック選手を出すこと、又、食育プロジェクトとして食の環境を整える為、学生たちに新しいメニューを導入し食に関しても力を入れているようです。

各支部の保護者の活動や大学の取り組み等、改めて実感することができ、報告会の後の懇親会でも、松井副学長をはじめ、各県の皆様との交流ができ、情報交換など有意義なひとときを共有することができました。

また会場を手配してくださった千葉県の役員の皆様、この場をお借りして心から感謝をし、御礼申し上げます。

支部会長連絡協議会報告

副会長　谷古宇 好江（三年保護者）

十一月六日（日）、世田谷キャンパスに於いて開催されました。全都道府県の保護者会長が集まり、本部役員・大学職員の方々とで大会議室はいっぱいでした。

大学の近況報告では、スポーツ文化学部と大学院教育学研究科の開設についてお話があり、又、リオオリンピック・パラリンピックについては、現役学生六名を含む二十八名が出場。九月二十八日（水）のオリンピック・パラリンピック報告会では四五〇〇名の学生が参加し、三名の学生が特別学長賞を受賞したとの報告でした。日体大生の活躍を一保護者として誇りに感じます。

各支部の活動報告では、総会の内容の工夫や、ホームページの分析結果のお話もあり参考になりました。

今年度は初めて支部総会の中で講演会を設け「食育について」と「災害ボランティアプロジェクトについて」のお話を伺い、スポーツだけでなく様々な分野での学生の活躍も知ることができ、会長代理で参加して貴重な経験をさせて頂きました。

キャンパス見学会・キャリア支援講演会

庄司 隆広（一年保護者）

十月三十日（日）、健志台キャンパスに於いて、キャンパス見学会・キャリア支援講演会が行われました。

当日は雨も心配されましたが、雨が降ることもなく、広大な健志台を吹き抜ける冷たい風に秋の訪れを感じる中、八十四名の参加者と、案内の二名の職員の方々とで見学会がスタートしました。

張替えたばかりの人工芝

約十七万平方メートルの中に、陸上競技場・飛込み台併設のプール・ゴルフ練習場・ラグビー場・サッカー場・野球場・テニスコート・体操競技館・体育館三館等があり、当日、陸上競技場では、記録会が行われていて、多数の高校、大学の陸上選手たちで一日中賑わっていました。又、米本記念体育館には、相撲場があり、土俵も立派なものでした。

野球場では練習が行われていて、張替えたばかりだという人工芝がとても鮮やかでした。体操競技館では、女子選手たちの練習を見ることが出来、本番さながらの迫力ある演技が楽しめました。

運動施設以外には、校舎が九館あり、その中の二号館にはコンビニエンスストアと食堂があり、食堂の一日二十食限定のカツカレーならぬ、"勝つカレー"（七〇〇円）が目を惹きました。（一度、食べてみたい！）三号館のスポーツ・キュアセンターには、日体大生による、整骨院があり、学生にとって、有難い存在となっているとか。九号館には、保健医療学部の広い実習室があり、エンジンが無い以外は、横浜市消防局と同じ救急車が二台もあり、災害時には直ぐに活動が出来る様なプロジェクトが進められているということです。（素晴らしい！）

"勝つカレー"

大山茂事務長からの就職についての説明がありました

見学会終了後、講演会が行われ、教養・教職科教授 後藤彰先生からは教職免許についてや、教員になるための貴重なお話を、キャリア支援部門事務室 大山茂事務長からは、就職の現状についての詳しいお話しを頂き、参加者にとって、大変有意義な時間となったキャンパス見学会・キャリア支援講演会でした。

第五十回 日体フェスティバル 二〇一六

山田 聡美（二年保護者）

去る十一月五日（土）、六日（日）、世田谷キャンパスにて節目の五十回という学園祭に参加して参りました。

今回のテーマ『感謝～溢れ出る想いをかたちに～』という名の通り、様々な企画が行われていました。まずは大学へ足を運んでいる途中にママやパパたちと大勢のチビッコを見かけました。足早に体育館へ向かうので私もついていった所、そこは仮面ライダーショーの会場でした。地域の方に体育館を開放し子供も大人も楽しめた素晴らしい企画でした。

もうひとつの体育館では、学生たちがドッジボール大会を開催していて、とても楽しそうでした。私が一番楽しみにしていたのは、前々回の世田谷キャンパスでもやっていた無料体力測定です。日体大生が親切にサポートしてくれて参加者の年齢も様々でしたが安心して測定ができました。こういう機会は他ではないので是非、皆さんも参加してみて下さい。

『お笑いＬＩＶＥ』会場も日体大生らしい大盛り上がりで、演者より学生の反応を見るのが楽しかったです。

模擬店ブースでは、各お店のチーム力がためされていました。作業に集中する人、販売をテキパキとする人、時には首から食べ物をさげて宣伝してまわる人、この中で学生たちは部活の運動以外でも活躍の場がある事に気付いた事でしょう。私も一品買って食べ、とてもおいしかったです。

リオオリンピック・パラリンピックが終わりましたが、日体大ではずうっとオリンピックが続いていると感じました。歴代のオリンピック選手の展示ブースには過去から現在までの選手のパネルがあり、これからもこのパネルは増えていく事でしょう。

一二五周年も迎え、東京オリンピック・パラリンピックではたくさんの日体大生の方々のご活躍をご祈念致します。

第五十四回 体育研究発表実演会（大阪府大会）

保戸田 重美（三年保護者）

十二月三日（土）、第五十四回体育研究発表実演会大阪府大会が開催されました。忘れられない感動が今も残っています。

一二五周年記念事業メインテーマ「日体大が刻んだ一二五年これまでとこれから」に基づく実演会テーマ「飛翔」躍動感あふれる演技、心の思い、学生たちの鼓動が胸が苦しくなるほど伝わり涙溢れる思い、一言では表す事が出来ない貴重な時間を過ごさせて頂きました。子供と離れて暮らしているご家族の方も思い出の時間が出来たのではないでしょうか。

二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックに向け日体大はさらなる活躍の場が増え、今以上に指導をして頂く先生方、ご家族、学生三者の協心、一致団結が素晴らしい結果へと導く事と思います。

次回もまた楽しみに、そしてこれからの日本体育大学の学生たちの活躍を夢見て応援させて頂きます。

飛翔け日体大!!

第五十四回 体育研究発表実演会（和歌山県大会）

野呂 明子（一・三年保護者）

今年創立一二五周年を迎えた日本体育大学の第五十四回体育研究発表実演会が十二月三日（土）に大阪市中央体育館、翌四日（日）に和歌山ビッグホエールにて飛翔（はばたく）をテーマに全十四のプログラムが実演されました。

主に競技の特徴、採点方法、実技を披露したバスケットボール、陸上競技、体操競技、レスリング、トランポリン、主に演技を披露した伝統芸能（和太鼓）、チアリーダー、新体操、少林寺拳法、体操、集団行動、ダンス、田中理恵助教による日体体操、プログラムの最後には日本体育大学伝統のエッサッサも披露されました。日ごろの練習の成果を存分に発揮した若さ溢れる実演に会場からはたくさんの大きな拍手が送られました。特に近年メディア等で話題の集団行動では、集団が交差したり素早く隊列が変わったりする度に歓声と拍手が湧き起こり、観覧に来ている人の関心の大きさを実感しました。

実演会を通して、ただひたすらその瞬間を一生懸命に頑張る姿や姿勢は、観ている人の心に無条件に感動を届けられるものなのだと改めて感じました。

体操部演技発表会

川野　裕美（一年保護者）

「感動、感動、感動」の二時間でした。

十二月十八日（日）、国立代々木競技場第二体育館で体操部の演技発表会が行われました。伝統ある体操部は今年もいろいろな会場で活躍しましたが、今年最後の発表会であります。

一時間以上前から観客が入口で並び、開場後まもなく満席状態。始まる前から熱気に満ちた中、佐藤弘道お兄さんのジョークを交えた進行で始まりました。

北京体育大学（上段）、国士舘大学（下段）

司会の弘道お兄さん

国際交流協定を締結している北京体育大学の優雅な演技から始まった演技発表会はテンポよく進行し、私たちは休む間もなく次々出場する皆さんの演技にひきこまれていきました。

ミュージカル仕様の服装が絢爛豪華な文化学園大学との演技、リオオリンピック・パラリンピックを彷彿させる日体大新体操クラブのしなやかな演技や国士舘大学男子新体操部、歌舞伎立廻りの力強さ、オールドボーイズ（体操部ＯＢ）の躍動感とパワーに圧倒されました。

また、日体大から教育現場への提案である「楽しく安全な組立体操」が活気ある美しい演技により実現し、印象深く残りました。

そして、メインの体操部。会場が一番盛り上がった瞬間でした。音楽と一体になり、一糸乱れぬ隊形、迫力ある演技を目の当たりにし団体で行う演技がこれほど美しいものなのかと久しぶりに感動いたしました。

これも体操部の皆さんたちの毎日のたゆまない練習の成果とチームワーク、指導者の先生との絆の賜物と言えるでしょう。今回初めて見学しましたが、キレのある演技と迫力に圧倒された発表会でした。来年も楽しみにしています。ありがとうございました。

体操部の圧巻のフィナーレ

歌舞伎俳優研修生（上段左）、文化学園大学（上段右）、新体操部（下段）

第九十三回 箱根駅伝 ”応援できる喜び“

村上 浩（一年保護者）

今年の箱根駅伝は、シード校として本戦からの出場です。選手たちは予選会というプレッシャーを背負うことなく、一月二日（月）からの本戦へ照準を合わせて日々努力を重ねてきたものと思います。

一月二日（月）、早朝より応援団、チアリーダー、ブラスバンド、大学関係者、ＯＢ、保護者等々が一堂に集まり、熱のこもった応援合戦が展開され、スタートの時間を今や遅しと待っていました。

午前八時、いよいよ二日間の戦いがスタートしました。それから七分くらい経過したでしょうか、日体大応援団の待ち構える前を選手が集団となって通過、その中には、日体大の小松選手（四年）の力走も確認できます。詰めかけた沿道の方々も通過する選手たちに対して大学に関係なく「がんばれ！がんばれ！」と声援を送っていました。

その後、往路のゴールである箱根へ移動したのですが、箱根の峠を登るにつれ徐々に風が強くなり、気温も下がってきました。芦ノ湖湖畔では、強く冷たい風が選手たちを待ち構えており、日体大応援団の熱のこもった応援と共に「無事ゴールまで襷を繋いでくれ」と祈るばかりでした。

やがて大声援と共に先頭の選手が見えてきました。”やはり青学は強い“

その後も続々と選手たちが通過し「そろそろ日体大も来るはず」と待ち構える中、前方から青と白のユニホームが見え、目の前を力強く駆け抜けて行きました。

往路の成績は、十三位でしたが、明日に繋がる走りに感じられました。

一月三日（火）、快晴の元、午前八時に復路のスタートを迎え、日体大はトップと六分四十四秒差。一斉スタートではなく、時間差単独での堂々としたスタートです。この日も沿道には関係者や駅伝ファンが大変多く詰めかけ、途切れることのない応援が繰り広げられ、箱根駅伝を盛り上げています。

六区は、昨年快進撃の走りを見せてくれた秋山選手（四年）が今年もエントリーされ、期待通りの区間新記録で六人を抜き順位を七位まで押し上げる快走を見せてくれました。「下りの山の神」とも言えるその走りに感動しました。その後も数校による抜きつ抜かれつのレース展開に一喜一憂でしたが、各選手の力走により十区小野木選手（四年）へと襷が繋がりました。

大手町では、色とりどりの各大学の幟旗と共に日体大の幟旗も多く見られ、溢れんばかりの人々が選手のゴールを待ち受けている中、復路三位という好成績でゴールを迎えることができました。

総合成績七位。今年もシード権を獲得することができたと共に、六区の秋山選手は、今大会のＭＶＰに輝いたことは大変うれしく思います。

最後に、日体大関係者のみならず、沿道で応援してくださった駅伝ファンの皆様に感謝をしつつ、来年の活躍を願っています。

選手とともに

同窓会、保護者会、学生三者の協同一致を目指す！

日本体育大学同窓会
会長　瀧澤　康二

東京都保護者会の皆様には平素より何かとお世話になっております。先ずはこの紙面をお借りして衷心より感謝申し上げます。

私たち同窓会は、その活性化を主たるテーマに掲げて早や三年が経とうとしています。この間に母校は創立一二五周年を迎えました。大学はそれに相応しく、勢いよく発展し続けて今日を迎えています。私は、この悦ばしい現実は学校法人日本体育大学が敢えて理事会で決議した四つのスローガン（ワンファミリー化、国際化、選手強化、社会貢献）に力強く支えられているからこそであると確信しています。

特に、ワンファミリー化が大学の進化とともに盤石化しつつあることを痛感しています。このことは相互扶助を意味し、理念としての世界平和にも繋がる極めて大切なファクターでもあります。同窓会は長年、会費の徴収で苦労を重ねてきました。そのことが主たる要因で保護者会の皆様から信頼を失うという最悪な状況にまで陥っていました。しかし、幸いにも保護者会の皆様のご理解を得て、この暗いトンネルから抜け出すことができました。

三年任期の終盤を迎えました現同窓会役員は、この恩に報いるべく新たな挑戦を余儀なくされているところです。具体的には、同窓会準会員への新たな支援体制の確立であります。同窓会は従来から積極的に学生支援を行ってきましたが、このことを軸に、更なる協同一致を目指した体制づくりが必要であると考えています。

とりわけ、大学に最も近い東京都保護者会の皆様にはこの点をご理解頂き、同窓会、保護者会、そして学生、この三者の協同体制確立にお力添えを賜りたくお願い申し上げる次第です。同窓会としましては、「ネオ（都道府県人会」と称し、会の復活を目指しています。東京都は在学生、卒業生が多いだけに大変難しい課題ではありますが、一個の石から波紋が広がるごとく、小さい輪から粘り強く努力することが大切ではないかと考えます。皆様お一人おひとりのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

なお、末筆ですが東京都保護者会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

日本体育大学東京都同窓会
会長　高田　幸一

余寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より東京都保護者会の皆様には、ご支援、ご協力を賜り感謝しております。

まず初めに、昨年は、関東・北信越（一都十二県）地区協議会の開催地でしたので、保護者会の方々にもご尽力をいただき、保護者・同窓が一丸となり準備し、無事成功裏に終えることができました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

さて、同窓会組織にはいくつかの役割があります。大きくは、会員相互の親睦、同窓生や学生の就職支援です。就職活動の支援とは、教員採用試験に向けての支援と、教職以外の就職活動を目指す会員に対しての支援です。現在、学生の意識が大きく変化しており、大学の指針の下、保護者会と連携して支援することが大切になっています。

そこで、二十九年度採用試験に向けて、従来の中・高等学校教諭の教員採用試験に加え、第一次対策で小学校・養護教諭、特別支援学校の志望の学生に対しての取り組みも実施しました。また第二次対策では、大学キャリア支援部門と協力し「日体魂」を持った教員を目指す学生の指導（面接・集団討議等を含め）に全力で取り組みました。さらに昨年度もお伝えしましたが「日体教学舎」で現役の二・三年生を教員、社会人としての幅広い識見を持つ日体生を育成する取り組みを実施しています。保護者の皆様におかれましては、ぜひご子息・ご息女にも積極的な参加を促して下さい。

また広報活動としては、今年になりホームページを立ち上げました。大学との調整を早急に図り、学生及び同窓、保護者へ定期的に事業や企画の情報を提供していきます。それにより会員の理解と協力、また参加を促し、会員獲得の拡大に全力を注ぎます。

最後に、学生の大きな変化は、同窓会に対する期待も変化しています。東京都同窓会は、これからも保護者会と協力し学生の変化に対応、今までの人的財産と知的財産を活かすべく新たな企画・事業を展開してまいります。そして企業の方々の活躍する場の情報を提供し就職活動を伸展させる決意です。

大学が大きな変化を遂げている今、会として将来を共に展望できるよう最善を尽し同窓会員のため、学生のために全力で取り組む所存です。今後とも保護者会の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

日本体育大学東京都同窓会ホームページ
https://nittai-doso-tokyo.jimdo.com/

楽しんで四年間

松井 晃（一年保護者）

「お父さん、日体大受けたいんだけど」と娘から突然告げられた。私の感覚では日体大は運動がずば抜けてできる子たち、オリンピックを目指す子や、箱根駅伝に出場する子たち、そしてテレビで見た「集団行動」の大学というイメージがあったのでびっくりしました。本人は、高校から始めた「ラクロス部」のある大学と、将来子どもと接する職業を希望していたので、びっくりはしましたが、私としては納得し受験させました。

でも、入学して感じたことは、入学させて親子共々本当に良かったということです。本人は今、充実した学生生活を送っています。また、私も現在、保護者会役員をやらせていただいております。役員会や見学会のお手伝いなど結構忙しくしていますが、それぞれ個性のある保護者の方たちとお話ができ楽しいです。

姉や兄のときには、あまり大学生活に関心がありませんでしたが、最近私も日体大の一員になった気分で、今後も学生さんたちのお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

応援したダンスフェスティバル

澤栗 快子（二年保護者）

毎年恒例、盛夏の中「第二十九回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」が開催されました。震災から二十年を迎えた神戸で「がんばろう日本 ダンスの力で！」をキャッチフレーズにダンスを通じて「いまを生きる」ことを表現し、全国へ「勇気・夢・感動」を発信しました。

今回は全国から二十七の大学がしのぎを削り、わが日体大は、「痛快妖怪変化」。歌川国芳を題材に江戸の世界を舞台上に蘇らせた作品です。天保の改革により抑えられた人々が幕府への不満から、妖怪に変化していく様子を煌びやかにかつ力強く描きました。

毎日毎日一心不乱に練習し、ダンス部の心を一つにした結果「クロスカルチャーへの新しい挑戦に送られる・特別賞」をいただきました。賞を手にし、今までの苦労が実った瞬間です。支えてきた親も感動の限りです。翌日受賞者だけの特別プログラム（テレビ用撮影）が行われて、踊っている学生たちに、大きな大きな拍手を送った夏が終わりました。

三年生の保護者として思うこと

芳賀 誠（三年保護者）

息子が日体大に入学して、アッという間に三年が経ちました。彼は現在、体育の先生になりたいという夢に向かい、努力をしています。と言っても、世間一般の学生の様に企業訪問を行う訳ではなく、採用試験の日程に合わせて勉強をしている程度のものと思われます。（陰で努力をしているかも知れませんが…）

三年生の親としては、きちんと希望の仕事に就けるかが気にかかるところですが、この時期に親が焦ってあれこれ言って、子どもが悩んでしまっては逆効果となると思い、どっしりと構えていることにしています。これといって取り柄もない平均点の子ですが、我が子を信じ、吉報を待っています。

この三年間は、保護者の皆さんと一緒に学生の活躍を見させていただきました。残り一年となってしまった日体大での生活ですが、保護者の皆さんと一緒に、そして息子と一緒に楽しく過ごしていけたらと思っていますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

卒業を迎えて

平井　順子（四年保護者）

三月で卒業する息子が日体大を選び入学し、日体生の皆さんからたくさんのパワーと感動をもらいました。

伊豆大島にある海洋国際高校に進学し、海洋系を目指していた息子。ピーナッツアレルギーがあるためにサイパンまでの実習船に乗る事が出来ず、心のダメージは計り知れないものがありました。ストレスから走っている最中に運動誘発アレルギーを何度か発症し、今後の進路を悩む日々の中、保体科の先生からのアドバイスで体育大学を目指す事になりました。

離島で門限十八時二十分の寮生活。予備校はありません。日体大志望の友人と夕食後限られた時間のトレーニング。無事合格し、友人は硬式野球部マネージャー。息子は陸上競技部中距離ブロックに入部しました。

一年目は練馬の自宅から通い、家に居る時間はほとんど無く多忙な日々を送り、二年目から合宿所生活を始め、学校の様子が全くわからず、私は三年生から保護者会活動に参加させて頂き情報を得る事が出来ました。

また、健志台で行われる陸上記録会も楽しみで、息子の様子を見に足を運びました。

四年間を通して運動誘発アレルギーを発症する事も無く、これから先も生涯、スポーツを続けて何事も乗り越えてほしいと願っております。

娘二人と過ごした日体大の六年

会長　清水　紀子（四年保護者）

姉は大学院の修士課程、妹は体育学部を卒業します。二人の娘は共にダンス部に所属し、様々な場で発表する創作ダンス作りに先輩・後輩の壁を越えて団結し、ダンスを通して共に気持ちの通じ合う仲間と共に、一つの目標に向かってダンスを作り上げてきました。その中で身体の動きで表現する事やリズムに合わせて躍動的な動きを伝える事の難しさを知り、仲間の存在と気持ちを伝える大切さをダンス部で学ぶ事が出来たと思います。

部活動でご指導下さった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

娘たちの卒業と共に、私も長かった子育てから卒業です。これからは社会人として翔いていく娘たち。元気な笑顔で応援し続けていきたいと思います。

娘たちが入学以来、五年間、「日本体育大学東京都保護者会」の役員として活動した中で、規約の改正や講演会の運営など、多くの行事を通して意見を取りまとめていく事の大変さもありました。

役員の皆様のお力をお借りして無事執り行うことが出来たことに、御礼申し上げます。

有難うございました。

日本体育会体操学校の正門を世田谷キャンパスに復元

編集後記

リオオリンピック・パラリンピックでの日体大の学生の活躍に一喜一憂し、この興奮のまま二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックまであと三年となりました。私たち保護者も学生たちをずっとサポートしていきたいと思います。

今、日体大では食育についての取り組みに力を入れているという事です。とても大事なことだと思います。今こそ私たち保護者の力が試される時であり、楽しみであると。健全な精神は健全な肉体に宿る・・・といいます。

この定期会報では保護者の方々の、生の声、お気持ちを掲載することが出来ました。お忙しい中ご寄稿いただきました皆様をはじめ、ご協力くださった方々に感謝申し上げます。

広報委員　北野（記）